

信州大学-Curtin University
大学間学術交流協定に基づく
平成 25 年度夏期海外単位認定プログラム実施報告書



信州大学



-2013-

Curtin

平成 25 年 10 月 31 日
信州大学医学部保健学科

I.	学術交流にあたって	1
II.	カーティン大学との学術交流を同総会は支援していきます.....		2
III.	学術交流の概要	3
IV.	カーティン大学の概要	5
V.	平成 25 年度夏期海外単位認定プログラム		
1.	はじめに	6
2.	夏期海外単位認定プログラム		
3.	研修期間		
4.	研修場所		
5.	研修プログラム概要	7
6.	参加人数	8
7.	指導教員		
8.	研修費用		
9.	研修日程	9
10.	研修プログラム詳細	10
11.	学生アンケート	14
12.	学生レポート	20

(編集後記)



I. 学術交流にあたって

信州大学医学部保健学科長 寺田 克

手元に平成 25 年 8 月 30 日に公表された「平成 26 年度文部科学省概算要求の概要」に関する書類があります。この中の高等教育に関係すると思われるいくつかのキーワードの一つに、「グローバル人材の育成」が上げられます。内容を詳細にみますと、「新しい日本のための優先課題推薦枠」における文部科学省が取り組むべき課題として、「大学等の海外留学支援制度の創設」において、海外留学のための奨学金等支給による経済的負担の軽減(短期派遣:本年度 10,000 人から 32,000 人に増)と双方向交流の推進による日本人学生の海外留学促進(短期受入:本年度 5,000 人から 10,000 人に増)が盛り込まれています。また本学においても「学内版グローバル人材育成海外活動支援プログラム」が本格的に稼働し始めています。平成 24 年 6 月に文部科学省から出された「大学改革実行プランー社会の変革のエンジンとなる大学づくりー」の答申の取り組み事項の一つである「学生の双方向の交流の推進」は、上記事項の予算措置等を経て、少しずつ実効性のあるものになってきていると感じています。

本学科では一昨年度末ころより、海外の保健医療学系の学部・学科をもつ大学からの受け入れに関する問い合わせや学生さんから留学生と交流する機会を設けてほしいなどの要望が増えてきたことから、本年度より学科内に国際交流委員会を常設し、学術・教育面での国際交流推進等に向けた新たな取り組みを開始しています。8 月には Singapore General Hospital PTE LTD (Sing Health)との学部間学術交流協定を締結しました。今後カーティン大学夏期海外単位認定プログラム同様に内容の充実したプログラムを展開していきたいと考えています。

さて本年度のカーティン大学夏期海外単位認定プログラムには、看護学専攻 13 名、検査技術科学専攻 1 名、理学療法学専攻 6 名、作業療法学専攻 1 名の学生さん 21 名が参加されました。帰国後のアンケートをみますと、個々の学生さんが多くの刺激を受けて戻られたことが窺えます。この体験で得た感性や知識が今後の学生生活、社会人生活に有意義に働くよう期待しています。また昨年同様に本年度もカーティン大学より教員をお招きし、オープンミーティング等の開催を計画しています。本プログラム参加者だけでなく、大学院生を含めた多くの学生さんが参加し交流を深めていただきたいと思います。

本プログラムの運営には、カーティン大学との事前交渉、プログラムの作成、学生へのプログラムの紹介、航空券の確保と準備、支援金の確保、渡航中の学生さんの安全確保等のために多くの教職員が関わっています。また帯同教員不在中は学部の秋期に向けての準備時期にあたるため、在松の教職員の協力が不可欠です。関係した教職員の方々にこの場をお借りし感謝いたします。

本年度も学生さんに対しては日本学生支援機構の留学生交流支援制度(ショートビジット)の採択を受けご援助いただくとともに、学内版グローバル人材育成海外活動支援プログラムからもご援助いただきました。また本プロジェクトに帯同する教員の渡航費用の一部等を学長裁量経費や同窓会の基金よりご援助いただきました。ご配慮くださった信州大学本部役員の皆様ならびに信州大学医学部保健学科同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。

Ⅱ. カーティン大学との学術交流を同総会は支援していきます

保健学科同窓会長 川上由行

今年2013年度も、西オーストラリア州パースにあるカーティン大学における海外短期単位認定プログラムが実施され、お盆休暇直前の8月9日（金）から9月1日（日）までの3週間のプログラムを滞りなく終了することができました。本年は、帯同教員のおひとりが、予定を早めて帰国せざるを得ない状況が発生しましたが、順調に総ての日程を遂行することができ、参加学生と帯同教員の全員が、元気で帰国することができました。

パースでの Curtin-Life を十分に満喫された学生さんには、掛け替えのない日々を体験されたことと思います。そしてこのプロジェクトの円滑運営に対して労力を惜しまずに支援された教員各位、そして実際に引率された教員各位には、本当にお疲れさまでした。

本年は、3月にカーティン大学 Biomedical Sciences 学部の教員 Dr. Martin 先生を招聘することができ、臨床検査部をはじめ信州大学病院の多くの部門を見学していただきました。検査技術科学専攻教員が中心になって松本周辺の彼方此方を案内させていただきましたが、Martin 先生のご専門が微生物学ということもあって、私は、私自身が少し関係している県立こども病院の見学も含めて案内をさせていただきました。県立こども病院では、日高検査課長（検査技術科学専攻の日高准教授夫人）の案内で検査室全般を見学させていただき、細菌検査室では、ちょうどタイミングよく Infection Control Team のメンバーが集まっていて、こども病院の ICD（Infection Control Doctor）との交流もしていただくことができました。

そして、Martin 先生との交流が、さっそく今年の短期単位認定プログラムにも反映させていただいたことを帯同された藤本教授からもお聞きし、嬉しく思っています。

今後は更に緊密な連携の中で、教員相互間の学術交流、また本保健学科学生、また保健学専攻大学院生とカーティン大学の学生相互間での益々の有効的な交流へと進展して行くことを祈念しつつ、保健学科同総会は、この学術交流を応援して行きます。建設的な意見交換の中でこの素晴らしいプログラムがより一層の輝きを増していくことを信じています。



アルプス会 臨嶺会 州嶺会 桐の木会



信州大学医学部保健学科同窓会
School of Health Sciences, Shinshu University

Ⅲ. 学術交流の概要

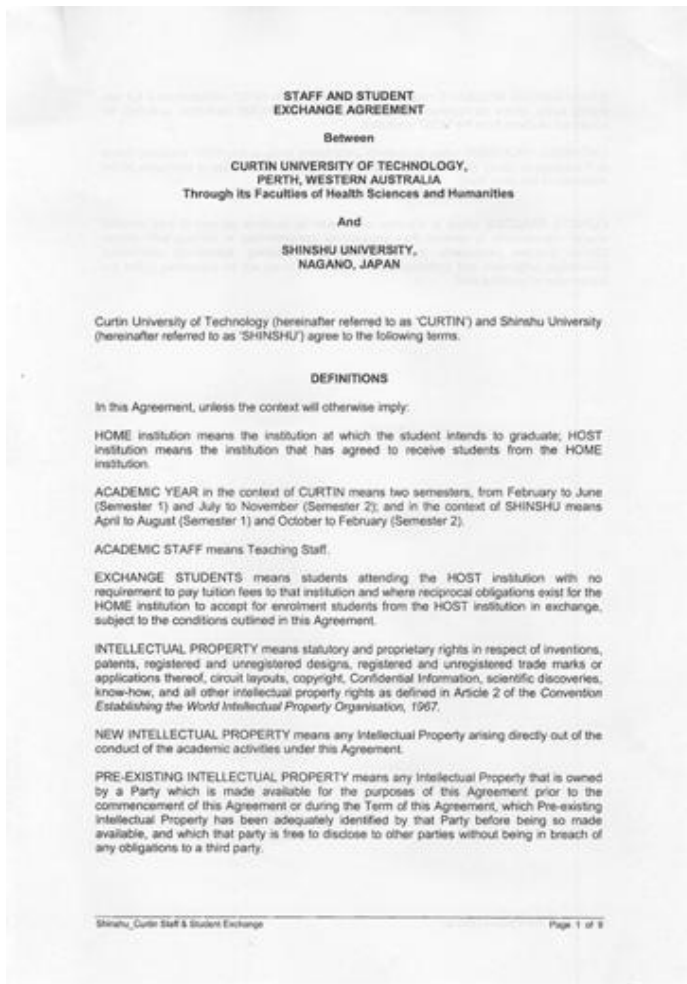
1. 学術交流協定及び学生の交流に関する覚書締結の経緯と交流実績

- 1) 1992年8月、イギリス、ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授(現 郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長)と、カーティン大学健康科学部ジョン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まった。
- 2) 1997年3月、藤原孝之教授、楊箬隆哉教授(当時)およびゴウ・アー・チェン助手(現准教授)の3名が、カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え、健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集、共同研究課題の打ち合わせを目的としてカーティン工科大学を訪問した。カーティン工科大学学長、健康科学部長、看護学科、医学検査学科、理学療法学科、作業療法学科等のスタッフとの会談の折、両大学間の、より積極的な学術交流が話題となり、教員、学生交流の早期実現に向け検討することで合意した。
- 3) 1998年7月-8月、藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折、カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し、当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け、同大学が信州大学との大学間学術交流に興味を示していることがわかった。
- 4) 1999年3月、本学藤原孝之、楊箬隆哉両教授がオーストラリアに出張した際、副学長ジョン・ミルトン・スミス教授、健康科学部長チャールズ・ワトソン教授、看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン、理学療法学科主任教授ジョン・コール、国際教育課程担当パメラ・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談した。両大学の資料を交換し検討した結果、単一学部間に留まらず、広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意した。その際、カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かった。
- 5) 1999年4月、学術交流協定を締結した。
- 6) 1999年5月、横浜で開催された第13回世界理学療法連盟学術集会に特別講演演者として来日したジョン・コール教授が、信州大学を表敬訪問し特別講義を行った。
- 7) 2000年8月、学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書を締結。同9月、宮坂敏夫教授(短期大学部長)以下教官、学生20名がカーティン工科大学を表敬訪問し、各学局の国際交流担当者らと短期留学の可能性を協議した。帰国後、部長のもとに5名からなるチームを置き、プログラムの実施計画を作成した。
- 8) 2001年8月、信州大学医療技術短期大学部学生32名がカーティン工科大学にて第1回夏季留学・単位認定プログラムに参加した。
- 9) 2002年(第2回)は27名、2003年(第3回)は24名、2004年(第4回)は20名、2005年(第5回)は29名、2006年(第6回)は28名、2007年(第7回)は15名および信大附属病院看護師2名、2008年(第8回)は31名(内大学院生2名)、2010年(第9回)は19名、2011年(第10回)17名、2012年(第12回)22名、2013年(13回)21名が夏季留学・単位認定プログラムに参加した。
- 10) カーティン教員招へい:2007年1~2月、国際教育課程ディレクター パメラ・ロバーツ、2010年1月、Nursing school 講師アラン・トルク。2013年1月、Biomedical Sciences 学部 Dr マーティン。

2. 学術交流協定及び教員と学生の交流に関する協定書の更新

1999年4月に締結された学術交流協定及び2000年8月に締結された学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書は、2004年4月に信州大学とカーティン工科大学の間で、「学術交流協定」及び「学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書」として更新され、2009年には信州大学国際交流センターを窓口とした大学間協定となり、夏期研修プログラムとカーティン教員招へいが医学部保健学科とカーティン大学英語センター(Curtin English Language Center, CELC)・健康科学部により企画・実施され、両校の交流は一層親密に深められることになった。また、本協定に基づき、信州大学はカーティン大学から短期留学生(学部)を受け入れている。

教員と学生の交流に関する協定書 (2009.9)



IV. カーティン大学の概要

1. 設立

- 1) 1967年: The Western Australian Institute of Technology (WAIT) として創設。
- 2) 1987年: Curtin University of Technology (カーティン工科大学) となる。
- 3) 2010年: Curtin University (カーティン大学) となる。

*カーティン工科大学の名称は、オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため、学内に国際教育担当部門を独立させ、情報ネットワークを整備し、国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996年から、シンガポール、マレーシア、インドネシア、香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し、実績を上げている。大学院教育では、卓越した教育プログラムが評価され、非英語圏のみならずアメリカ、カナダ、ヨーロッパの留学生も相当数在学している。

2. 位置

- 1) 西オーストラリア州
- 2) メインキャンパスはパース(Perth: 西オーストラリア州の州都。人口約120万)の郊外ベントレー(Bentley: 中心部より10キロ南東へ位置、海岸まで車で20分)に立地し、他にPerth中心部の大学院キャンパスとその他のキャンパス(海外を含む)を有する(Kalgoorlie, Margaret River, Northam, Perth, Shenton Park, Sydney; Malaysia, Singapore)。

Address: Kent Street, Bentley, WA6102, Perth, Western Australia

TEL : 08-9266-9266, HP-address: <http://www.curtin.edu.au/>

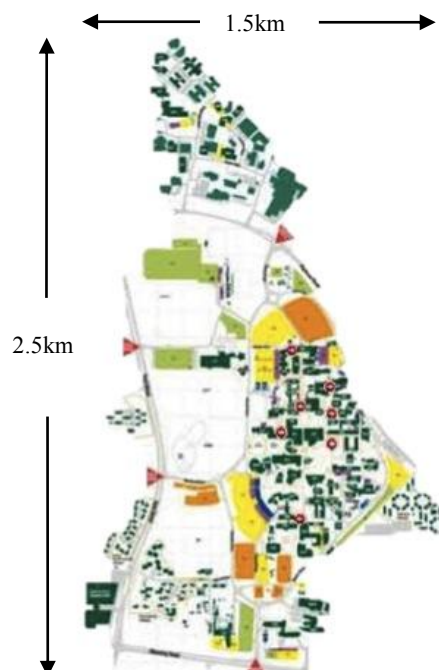
3. 学部等

- 1) 学部: 経営学部, 健康科学部, 人文学部, 理工学部, 先住民研究
- 2) 大学院: 経営学, 健康科学, 人文科学, 理工学

4. 学生数(2011年)および

教職員数(2011年)

- 1) 学生数: 63,321人
うち、通信教育課程 16,326人
現地留学生: 10,365人
在外留学生: 9,147人
(オーストラリア外キャンパス, センター在籍)
- 2) 教員数: 1,533人
- 3) 職員数: 1,863人



V. 平成 25 年度夏期海外単位認定プログラム

1. はじめに

信州大学-カーティン工科大学間学術交流協定にもとづき、平成 24 年度夏期海外単位認定プログラムが平成 25 年 8 月 9 日から 9 月 1 日の約 3 週間にわたり、カーティン大学及びパース市内外の関連施設・病院で実施された。本年のプログラムには 21 名の信州大学医学部保健学科学生が参加した。

カーティン大学での単位認定プログラムの実施にあたり、5 月から 7 月にかけて、単位認定プログラム全般のオリエンテーション、研修内容の説明、研修関係資料の配布と事前学習の説明が行われた。

2. 夏期海外単位認定プログラム

- 1) 目的:他大学・文化での学習・生活体験を通じ、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
- 2) 本学における単位認定:国際医療協力論の単位として認定する。単位認定には、信州大学、カーティン大学における全てのプログラムに参加することとし、研修レポートの提出が必須である。

3. 研修期間

平成 25 年 8 月 9 日(金)～ 9 月 1 日(日), 24 日間

4. 研修場所

- 1) 研修キャンパス; カーティン大学ベントレーキャンパス
- 2) 見学施設

看護学専攻

Regent's Garden Aged Care Facility, Perth
King Edward Memorial Hospital, Perth
Fremantle Hospital, Fremantle

検査技術科学専攻

Regent's Garden Aged Care Facility, Perth
Perth Pathology Lab, Fremantle
Australian Red Cross Blood Donor Centre, Perth

理学療法学専攻

Shenton Park Rehabilitation Hospital, Perth
Physio Services Bentley Clinic, Curtin University
Independent Living Centre, Nedlands

作業療法学専攻

Shenton Park Rehabilitation Hospital, Perth
Physio Services Bentley Clinic, Curtin University
Independent Living Centre, Nedlands

5. 研修プログラムの内容 (Curtin University)

第1週; Orientation & English Class/Hospital Communication for Health Professional (CELC*)

- ・カーティン大学および CELC のオリエンテーション
- ・CELC による英語および医療英会話の授業
- ・キャンパスツアー
(* CELC: Curtin English Language Center)
- ・Excursion (Freemantle: アボリジニーの歴史を学び、民族楽器の演奏を体験)

第2週; Combined Lectures

- ・保健医療領域の合同授業
The Australian Health Care System
- ・Auditing & Tutorials (看護・検査・理学・作業に分かれて、授業の聴講)
- ・実習 (検査技術科学, 理学療法学, 作業療法学)
- ・Excursion (Swan Valley)

第3週; Combined Lectures/ Tutorial, Practice, Clinical Visits & Graduation Ceremony

- ・専攻別専門領域の授業
- ・アボリジニの文化とライフスタイルについての授業
- ・施設見学
 - ① Regent's Garden Aged Care Facility, Perth
 - ② Shenton Park Rehabilitation Hospital, Perth
 - ③ Fremantle Hospital, Fremantle
 - ④ King Edward Memorial Hospital, Perth
 - ⑤ Perth Pathology Lab, Fremantle
 - ⑥ Australian Red Cross Blood Donor Centre, Perth
 - ⑦ Community Based Physio Services Bentley Clinic, Curtin University
 - ⑧ Independent Living Centre, Nedlands
- ・修了式



修了式後の1枚

6. 参加人数

看護学	:	13名(1年生5名, 2年生1名, 3年生7名)
検査技術科学	:	1名(1年生1名)
理学療法学	:	6名(2年生2名, 3年生4名)
作業療法学	:	1名(2年生1名)

合計	21名
----	-----

7. 引率指導教員

プログラム担当教員

藤本圭作 教授, 山崎浩司 准教授, 佐々木努 講師

8. 研修費用

研修費用

【内訳1】

・往復航空運賃*	159,755円
・往復バス代	17,105円
・特別プログラム授業料等	254,060円
英語クラス, 保健学共通講義, 専門別(看護, 検査技術, 理学療法・作業療法)講義・実習, 施設見学(含む移動費用, 指導支援費用), 緊急事故支援システム料, 滞在費(3週間(ホームステイ, 食事込))	
計	430,920円

*往復航空運賃は個人購入を行ったため、平均値を示した。

現地プログラム担当教員3名分の航空運賃, 宿泊費は24年度信州大学知の森未来プロジェクト戦略的経費と保健学科同窓会寄付金等から計上された。

研修支援

平成25年度夏期海外単位認定研修は、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)の平成25年度留学生交流支援制度(ショートビジット)に応募, 採択された。参加学生21名のうち, 審査基準に則り17名に7万円の奨学金が支給された。残り4名については, 信州大学平成25年度グローバル人材育成事業による海外活動支援に応募を行い, 採択され, 奨学金が支給された。

9. リスク管理体制

2011年2月のニュージーランド地震時の日本人留学生被災等を踏まえ, 平成23年度からは, 信州大学が正会員となっている特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会(The Japanese Council for the Safety of Overseas Studies; JCSOS)の緊急事故支援システムに加入し, 研修中の不慮の事故に対するリスク管理体制を強化した。本年度も当支援システムに継続して加入のうえ, プログラムを実施した。

9. 研修日程

- ① 8月9日午前11時半30分に信州大学体育館前よりチャーターバスで出発し、午後6時00分、東京成田空港に到着した。同日午後8時50分にSQ(シンガポール航空)11便で成田空港を出発し、翌10日午前2時55分にチャンギ空港(シンガポール)に到着。約5時間のストップオーバーの後、SQ213便(午前7時55分発)に乗り継いだ。
- ② 8月10日午後1時5分パース空港に到着。カーティン大学が手配したバスにてカーティン大学ベントレーキャンパスに移動した。カーティン大学で、プログラム・コーディネーター、ホームステイ・コーディネーター、そしてホームステイ先のホストファミリーの出迎えがあった。各々がホームステイ先に向かった。学生はホームステイ・コーディネーターなどから、ホームステイ先での生活の規則、治安、1週目の大まかな予定確認などについて、簡単なオリエンテーションを受けた。
- ③ 8月12日カーティン大学にてオリエンテーション、インターネット・アクセスのための手続きなどが行なわれた。
- ④ 8月13日～30日の期間、英語および医療英会話の授業、オーストラリアのヘルスケアに関する授業、保健科学領域の授業、専攻別の授業聴講、実習、チュートリアル及び施設見学のプログラムが実施された。プログラムの詳細はP10～に示した。
- ⑤ 8月30日午前9時から Graduation Ceremony が行なわれ、学生が一人ずつプログラム修了証を授与された後、英語でスピーチをした。会場では飲食物がふるまわれ、カーティン大学プログラム・コーディネーターや教員たちと学生とが最後の交流を深めた。翌日8月31日にキャンパスに集まり、ベントレーキャンパスからカーティン大学が手配したバスにてパース空港に移動し、午後5時10分発チャンギ空港行き(SQ214便)に搭乗した。当日の午後10時35分にチャンギ空港に到着し、11時55分に東京成田空港行きSQ638便でシンガポールを離れ、翌日9月1日午前8時に無事成田空港に到着した。
- ⑥ 成田空港からの帰松は往路と同じくチャーターバスを利用し、9月1日午後1時に信州大学北門到着、3週間の短期留学を終え解散した。



修了書を手

10. 研修プログラム一覧

Shinsu University Health Sciences Study Tour Program
12th August – 31st August 2012

NURSING – 13 students

Week 1: Nursing (Group A)		(week 4 ELICOS)			
Time	Monday 12 August	Tuesday 13 August	Wednesday 14 August	Thursday 15 August	Friday 16 August
10.00 – 12.00	Orientation Welcome Morning tea Curtin Student Cards SmartRider Cards Campus tour	English Class: Introduction to Australian Culture	10.30am Library tour <i>Meet outside building 208 @ 10am</i>	Class – English for health professionals	<i>Excursion: Fremantle walking tour – heritage walk; Didgeridoo Breath (learn about Aboriginal history; how to play the didgeridoo); Fremantle Markets</i>
12.00 - 1.00	LUNCH				
1.00 – 3.00	OASIS Login; catching public transport in Perth	English Class	<i>Tour of Nursing Facilities 405, level 3 (reception)</i>	English class; Preparation for excursion	<i>Depart Curtin 9.30am Depart Fremantle 2pm</i>

Week 2: Nursing		(week 5 ELICOS)			
Time	Monday 19 August	Tuesday 20 August	Wednesday 21 August	Thursday 22 August	Friday 23 August
	10 – 2 <i>**Indigenous Health & Culture Workshops</i> 8 – 5 <i>^^Nursing Practice Tutorials</i>	8.30 – 9.30 <i>Tour of Lab</i> 405.33 12 - 1 Activity: language exchange with undergraduate students studying Japanese	10 – 12 Class – English for health professionals	10 – 12 Join an ELICOS class and meet other international students	<i>Excursion: Swan Valley: Caversham Wildlife Park, Margaret River Chocolate factory Sandalford Winery</i>
Lunch					
			1 – 3 English class; Lectures debrief	1 – 3 English class; preparation for excursion	<i>Depart Curtin 8.30am Depart Sandalford 2.30pm</i>

**Indigenous Health & Culture Workshops		
10 – 12pm	108:111	2 students: A, B
11 – 1pm	405:206	3 students: C, D, E
11 – 1pm	108:117	2 students: F, G
12 – 2pm	405:205	4 students: H, I, J, K
12 – 2pm	108.116	2 students: L, M
^^Nursing Practice 162 Tutorials		
8 – 10am	216:118:TR	4 students: H, I, J, K
10 – 12pm	216:118:TR	2 students: L, M
1 – 3pm	402:327:TR	4 students: A, B, F, G
3 – 5	402:327:TR	3 students: C, D, E

Week 3: Nursing

(week 1 ELICOS)

Time	Monday 26 August	Tuesday 27 August	Wednesday 28 August	Thursday 29 August	Friday 30 August
	10 – 11.30 Visit: Regents Garden Aged Care Facility, Booragoon	10 – 11.30 English for health professionals, Prep for excursion	10 – 11.30 Visit: King Edward Memorial Hospital	10 – 11.30 English for health professionals, Prep for excursion; course & homestay evaluations	9.00 – 11am Graduation lunch and awarding of Certificates of Completion
Lunch	Depart Curtin 9.30am Depart Regents 11.30am	11.30 - 12 1 – 2.30 Visit: The Niche (ILC) Assistive Equipment Service Technology Service (all students) Depart Curtin 12pm Depart the Niche 2.45pm	Depart Curtin 9am Depart KEMH 11.45am	11.30 - 12 1 – 2.30 Visit: WAIS (Western Australian Institute of Sport) – tour of facilities and presentation about nutrition and community health program 1.00 presentation 1.45 tour (all students) Depart Curtin 12pm Depart WAIS 2.45pm	Venue: Tim Winton Lecture Theatre Foyer (building 213)

Times and days for Nursing sessions and field visits are subject to change

Date	AM / PM	Classroom	Teacher
12 August	AM	211.226	Judy
	PM	501.231	Judy
13 August	AM	211.226	Judy
	PM	211.226	Dallas
15 August	AM	211.226	Judy
	PM	211.226	Dallas
16 August	AM & PM	Excursion	Rona
20 August	PM	201.708B	Dallas
21 August	AM & PM	211.226	Sue
22 August	AM & PM	ELICOS /211.226	Padma & Sarah / Judy
23 August	AM & PM	Excursion	Rona
26 August	AM	Excursion	Rika
27 August	AM & PM	211.226 / Excursion	Dallas
28 August	AM	Excursion	Rika
29 August	AM & PM	211.226 / Excursion	Judy

PHYSIOTHERAPY PROGRAM – 6 PT students, 1 OT and 1 Biomedical Science student

Week 1: PT (Group B) PT, OT and Biomed.

(week 4 ELICOS)

Time	Monday 12 August	Tuesday 13 August	Wednesday 14 August	Thursday 15 August	Friday 16 August
10.00 – 12.00	Orientation Welcome Morning tea Curtin Student Cards SmartRider Cards Campus tour	Class: Introduction to Australian Culture	10.30am Library tour <i>Meet outside building 208 @ 10am</i>	Class – English for health professionals	<i>Excursion: Fremantle walking tour – heritage walk; Didgeridoo Breath(learn Aboriginal history; how to play the didgeridoo); Fremantle Markets</i> <i>Depart Curtin 9.30am Depart Fremantle 2pm</i>
12.00 - 1.00	LUNCH				
1.00 – 3.00	OASIS Login; catching public transport in Perth	English class	1pm Tour of PT facilities Meet Julie Bayliss level 3, building 408 reception	English Class; Preparation for excursion	

Week 2: PT (Group B) PT, OT and Biomed.

(week 5 ELICOS)

Time	Monday 19 August	Tuesday 20 August	Wednesday 21 August	Thursday 22 August	Friday 23 August
	11 - 1 Lecture: Neuroscience 213.104 10 – 12 Biomedical Science 100Lt 401.001 (Hollis)	9 – 10 Biomedical Science 100 Lab 308.261 12 – 1 Activity: language exchange with undergraduate students studying Japanese	8 – 10 Musculoskeletal Science 408.1019 10 – 12 Anatomy & Pathology 408.1019	10 – 12 Join an ELICOS class and meet other international students	<i>Excursion: Swan Valley: Caversham Wildlife Park, , Margaret River chocolate factory; Sandalford Winery</i> <i>Depart Curtin 8.30am Depart Sandalford 2.30pm</i>
	LUNCH				
	1.30 MRSA tests @ Curtin Health Centre 5pm Observe: Pathology Lab class 2 308.124	1 – 3 Lifespan health Science 408.1019	1 – 3 English class; Lectures debrief	1 – 3 English class; prep for excursion	

Week 3: PT (Group B) PT, OT and Biomed.

(week 1 ELICOS)

Time	Monday 26 August	Tuesday 27 August	Wednesday 28 August	Thursday 29 August	Friday 30 August
	10 – 11.30 Visit: Royal Perth Rehabilitation Hospital, Shenton Park	10 – 11.30 English for Health Professionals, Prep for excursion	9am Visit: Student Physiotherapy Clinic Level 3, building 404	10 – 11.30 English for Health Professionals, Prep for excursion; course & homestay evaluations	9.00 – 11am Graduation lunch and awarding of Certificates of Completion
Lunch		11.30 – 12		11.30 - 12	
	Depart Curtin 9am Depart RPH 11.45am	1 – 2.30 Visit: The Niche (ILC) Assistive Equipment Service Technology Service (all students) Depart Curtin 12pm Depart The Niche 2.45pm		1 – 2.30 Visit: WAIS (Western Australian Institute of Sport) – tour of facilities and presentation about nutrition and community health program 1.00 presentation 1.45 tour Depart Curtin 2pm Depart WAIS 2.45pm	

Times and days for PT sessions and field visits are subject to change

Date	AM / PM	Classroom	Teacher
12 August	AM	211.226	Judy
	PM	501.231	Judy
13 August	AM	211.226	Judy
	PM	211.226	Dallas
15 August	AM	211.226	Judy
	PM	211.226	Dallas
16 August	AM & PM	Excursion	Rona
20 August	PM	201.708B	Dallas
21 August	AM & PM	211.226	Sue
22 August	AM & PM	ELICOS / 211.226	Padma & Sarah / Judy
23 August	AM & PM	Excursion	Rona
26 August	AM	Excursion	Dallas
27 August	AM & PM	211.226 / Excursion	Dallas
28 August	AM	Excursion	Judy
29 August	AM & PM	211.226 / Excursion	Judy

11. 学生アンケート(N=21)

A. 出発前の準備

(1) 費用の捻出

	N
家族が全額負担	12
自己資金のみ	1
自己資金と家族の支援	8

(2) 渡豪前の自己学習

	N
自己学習した	16
何もしなかった	5

(3) プログラムの発表時期

(4月の新入生・在校生オリエンテーション)

	N
適切	20
不適切	1

(4) 参加申し込み締め切り期限

	N
適切	19
不適切	2

(5) オリエンテーション時期・回数

	N
適切	21
不適切	0

(6) オリエンテーション内容

	N
適切	20
不適切	1

【事前学習した内容】

- 英会話
- パースについて

【事前学習が必要と感じた内容】

- 英会話
- 医療英語

【(3) のコメント】

- 5月

【(4) のコメント】

- 5月末を締め切りしてほしい
- 6月を締め切りしてほしい

【(6) のコメント】

- 出発までに学生が行うべき内容を一覧表にしてほしい
- ホームステイ先の情報がもっと欲しかった

【参加動機】

- 海外の医療に興味があった
- 海外と日本の医療の違いを知りたかった
- 海外の病院の見学ができるため
- 海外の文化を知りたかった
- ホームステイに興味があった
- オーストラリアに行ってみたかった
- 自分の視野を広げたかった
- 自分の英語力を試してみたかった
- 本場の英語に触れたかった
- 入学前からこのプログラムに興味があった
- 海外のボランティアに興味があったから



出発の朝

B. ホームステイについて

(1) よかったこと

<英語力が向上した>

- 英語をつかってコミュニケーションがとれたこと
- 英語のスキルが高まった
- 生きた英語を学べた

<豪州の異文化を体験できた>

- オーストラリアの生活や文化を知ることができた
- 異文化を共有することができた
- 現地の暮らしを体験できた
- 日本人が控えめであることが実感できた

<人間関係が広がった>

- ホームステイ先の外国人と友達になれた
- 自分以外にも他国の留学生がおり、仲良くなれた

<自分が前向きに成長できた>

- 自分の英語力をためせた
- 家事や家の手伝いの大切さがわかった
- 親のありがたみを改めて感じた

(2) 困ったこと

<コミュニケーションの難しさ>

- 英語力がなくて、分からないことが多々あった
- 自分でもわかっているのか分かっていないのか分からないことがあった
- 電話で話す際、顔が見れないから内容理解に苦労した

<生活の違い>

- お弁当や朝食を自分で用意しなくてはいけなかった
- 遠慮してしまい、自分のやりたいことができない場面があった

<ホストファミリーの内情>

- ホストマザーの感情の起伏が激しくて大変だった
- ご飯を食べすぎて怒られたり、ワッフルを食べて帰ったらそれはジャンクフー

ドだと怒られたり、ほぼ毎日怒られたため若干落ち込んだ

- ホストファミリーが家にいないときに家に入らず、時間をつぶす必要があった
- 子どもとのコミュニケーションが取りづらかった
- 事前文書ではWi-Fiが使用可能となっていたが、使えなかった
- 洗濯の頻度をもう少し増やして欲しかった
- ホームステイ先が大学から遠く大変だった
- お風呂が寒かった
- 週末もホストファミリーは仕事や遊びにでかけているので寝ているしかなかった

<その他>

- 事前情報とは異なるホストファミリーになった
- 携帯が手に入るまで連絡手段がなかった

C. 研修コースについて

(1) 印象に残った見学先

① Regents Garden Aged Care Facility (4名)

- 富裕層であれば立派な施設に入所でき、十分なケアを受けながら最期を過ごせることができるという施設の豪華さに驚いた
- 日本で聞いたことのないサービスが整っていた
- 富裕層しか入所できない施設で不平等性を感じたから

② Kings Edward Hospital (8名)

- 看護師や助産師の話などを多く聞くことができた
- 重症度の高い分娩を行っていた。
- より専門的な助産師や手術室を知ることができた
- 男性の助産師がおり日本と豪州の違いを実感した
- 設備や器具を目にすることができ、日本

ではできないことを多く行っているといふことを学ぶことができた

- 先進的なことや工夫が成されていた

③ The Niche (1名)

- 作業療法の施設であり、とても興味深い見学内容であった

④ PT Clinic (6名)

- PT 学生のレベルの高さが知れたこと
- 学生が独りで患者さんの問診から治療・リハビリをしていたから
- 診療の裏の様子や仕組みを知ることができた

(2)よかったこと

<海外の医療について学習できた>

- 様々な施設を見学でき、知っている範囲での日本との違いを発見できた
- 日本と豪州の医療や看護の違いについて学ぶことができた
- 病院だけでなく、スポーツ選手の訓練施設など様々な施設を見学できた
- あらゆる視点から保健医療を知る良いきっかけとなった
- 専門講義や実習に参加することができた

<異文化体験>

- ホームステイができた
- 豪州の文化を身をもって体験できた

<英語力の成長>

- 生きた英語を使うことができた
- ホームステイ、授業を通して英語の勉強ができた

<自分の変化>

- 英語の必要性を認識できた
- 理学療法に対するモチベーションが高まった
- 信大の他の専攻、学年の仲間と情報共有できた
- 海外へ飛び出そうとおもった
- 日本のことを客観的にみれるようになった

- 視野が広がった
- 色々な出会いがあった

(3)困ったこと

<英語力の乏しさ>

- 現地のあらゆる説明が聴き取れなかった
- 買い物やカフェに行ったときは自分の英語が伝わらず困った

<講義について>

- 集合時間が早すぎ、バスがなくて困った
- 自分の知識がないために、豪州と日本の医療の違いを知ることに限界があった

<その他>

- 引率教員からのメールが届かなかった
- シャワーが5分と短かった
- 換金できる場所が市街地にいかないとなかったことが困った
- 街灯がなく、夕方にホームステイ先周辺が暗くなり怖かった。

(4)要望他

- 看護について学びたかった
- 看護について学べるような演習や学習機会を設けてほしい
- 英語の授業の内容を改善してほしい。発音練習に焦点が当てられていた
- 3週間では短かった
- 施設見学に行った際に、もっと実践的な経験をしたかった

D. 研修が与えた影響 (自由記載)

<学ぶことへの意識の変化>

- 英語や日本での学習に対するモチベーションが高まった
- 英語があればもっといろいろな文化に触れることができ、もっとたくさんの方の考え方や、制度など本当に多くのことを知ることができると思った
- 広い視野で見るともっと勉強すればもっと難しいことがあり、今、学んでいることが基礎であり、重要であることがわかった

- もっと一生懸命に勉強しなくてはいけないと思った

<専門分野や医療への学習意欲の向上>

- 看護や医療制度の違いも知ることができ、もっと視野を広くしていく必要があると思った
- 世界の看護事情をもっと知っていく必要があると思った
- 他国も含め、日本や自分が住む地域のことももっと知る必要があると思ったし、知りたいと思った
- 認定看護師や専門看護師など、より専門的な看護資格をとろうと思った

<視野の広がりや将来展望>

- 世界でも役に立てる看護師もかっこいいなと思った
- 他の海外の国に行ってみたいという気持ちになった
- 海外で働くことも視野に入れた
- 卒業後の進路の選択肢が広がった
- 今後、豪州だけではなく、様々な国の医療や文化を勉強して、将来外国の現場で働けるようにしたいと思った



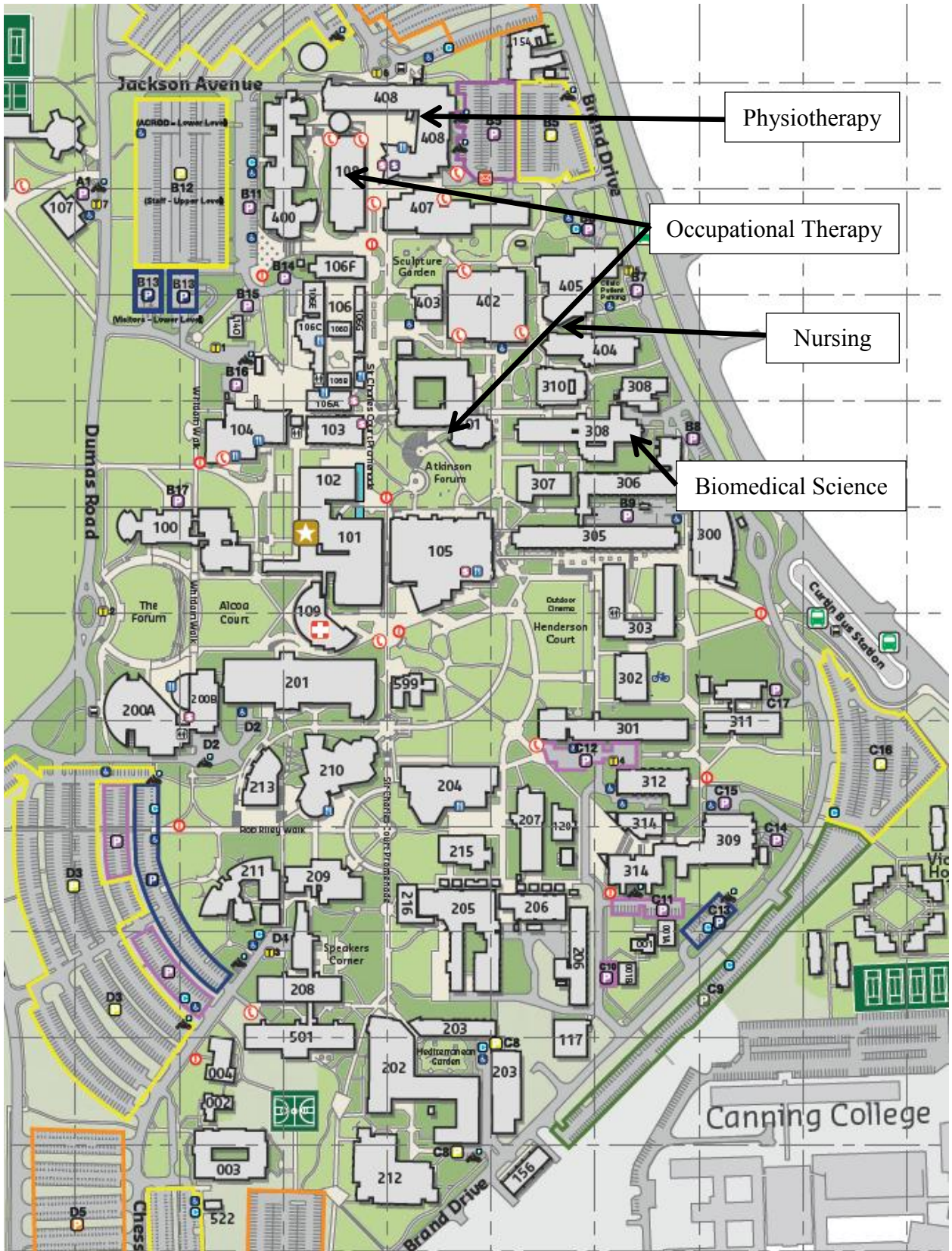
プログラム開始の朝

<人間としての成長>

- 積極的に何事にも取り組むことで得られるものが全く変わってくると思った
- 将来自分がどうなりたいかについて具体的に考えることができた
- もっと長期の留学をしてみたいと思った
- 今回自分が経験したことを日本の友人にも還元したいと思った
- 自分がこれから何かに挑戦するときに強い自信を与えてくれた
- 「やればできる」ということを知ることができた

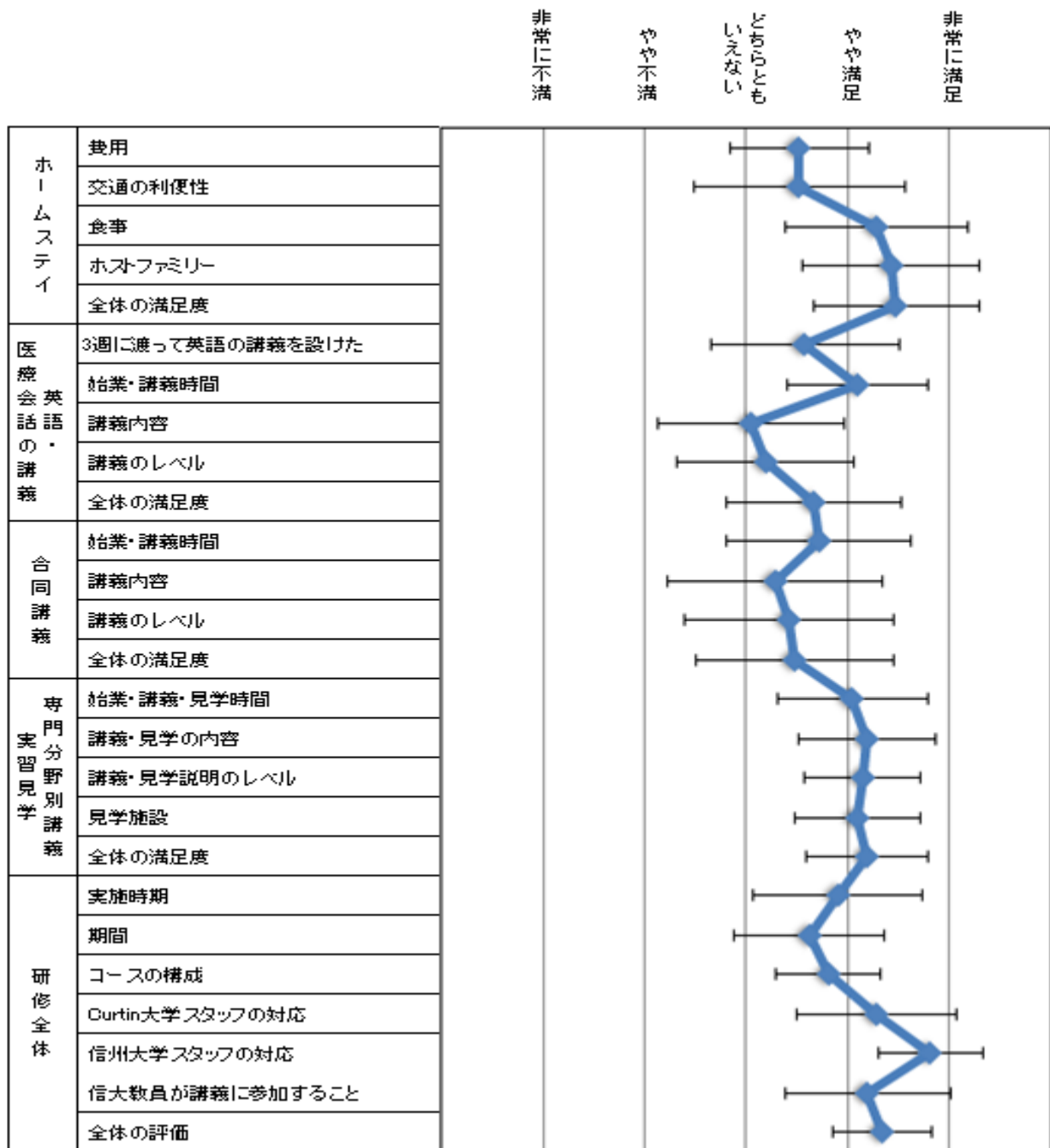


現地の学生と交流



カーティン大学ベントレーキャンパス

E. 研修に対する満足度



(Mean ± SME)

- ホームステイに関しては概ね良好な評価を得ている。
- 英語の講義に関しては、例年に比べ低い評価であった。発音練習に主眼が置かれていたことが影響していると思われる。
- 専門分野別授業では、特に看護科の合同講義がなかったため、低い評価となっている。
- 全体としては、概ね良好であった。特に、信州大学の引率教員の評価が高い結果となった。こまめな連絡、生活状況の確認を頻回に行ったことがよかったのであろう。期間に関しては、3週間では短いという感想が多く聞かれた。

12. 学生レポート

看護学専攻 1年 13M1120E 川添 亜美

Curtin 大学へ3週間という短い期間での海外留学を通じて、私はこれまでにない貴重な経験が出来たと思っています。1年生での参加はまだ早いと言われたこともあったけど、多くのことを得ることが出来、それらは決して無駄にできるものではありません。ホームステイの自分の部屋から一歩出たら、使える言葉は英語のみ。うまく言葉が通じず、言いたいことが言えず戸惑いばかりの毎日でした。私のホームステイ先にはブラジルからの留学生もいて、聞き慣れないブラジルの言葉や発音が少し異なっている英語を聞き取るのは難しく、私の英語もなかなか通じなかったので少し会話するだけでもどんな単語を使ったらいいのか考える必要があり、日本語が使えない不便さを実感しました。ホストマザーとブラジル語交じりで会話しているときは話に入れず居心地が悪いときもあったけどブラジルの言語や食文化など様々なことを教えてもらい、ホームステイを通してだからこそ得られたものだと考えています。ところで私が今回 Curtin 大学の短期留学に参加した理由は、語学力の向上のためでもあり、小さい頃から海外での医療活動に興味があり、将来海外に出て医療に携わりたいと思っているからです。実際に今回オーストラリアの医療制度を学び、自分の視野を広げることが出来たと思っています。

一週目はオーストラリアの言語や文化、病院に関する英語の授業がありました。大学内の施設の案内もあり、日本では考えられない敷地の広さに驚愕しました。校内あらゆる所に地図があったけど、3週間経っても迷子になる毎日でした。大学の授業に参加させてもらったときには生徒の積極性に驚きました。質問や議論が飛び交い、ずっと黙って座っている日本人の授業風

景とは違っていました。ディスカッションの際に私たちが日本人と分かると日本語で話してくれたり日本語ではこの表現は何て言うのか聞いてくれたり、様々な国の学生と話すことができてよかったです。二週目は看護の研修室に行って、実際の医療道具に触れることができ、ここオーストラリアでは看護師がどのような実習を受け仕事内容はどんなか等を知ることが出来ました。やはり日本と違って医療は進んでいるようでした。看護師でも抜糸や縫合をし、他にも日本では医者しか出来ないことが出来るなどその違いに私はさらに将来海外の医療に携わりたいという思いが強くなりました。また、ELICOS という英語を基礎から学んでいる留学生と交流の授業に参加し母音や子音の発音を一緒に勉強しました。日本語は『a,i,u,e,o』つまり『あ、い、う、え、お』の音の言い回しだけど英語は『a』だけでも2通りの発音があり、日本語と違って複雑で難しいと学びました。発音の違いに注意して短文を言い合う際、私は留学生より英語を勉強している期間は長いはずなのに、発音のダメ出しを受けたりなかなか Ok をもらうことができなかつたりで、とても恥ずかしい体験もしました。英語を身につけるには当然単語も必要だけどその前に発音をしっかり勉強することが大事だと分かりました。発音が間違っていると会話がスムーズに成り立たないレジでの会計時やレストランでの注文時に困りパニックになることがあるからです。

三週目は高齢者介護施設や産婦人科を訪問し、ここでも日本との医療の差を実感しました。私たちが訪問した老人施設はお金がないと入れない所で、見た目もホテルのようでした。一人一人に病室、ポストや小さい庭があり、まさに個々の家をイメージして作られていて、他にもテラスや映画館もあり驚くばかりでした。しかしお金がある人しか入れないということに私は違和感を覚えました。お金がない人でも誰で

も入れる施設を作るべきだと考えます。結局格差は世界中で起こっているのだと改めて思い知らされました。元々オーストラリアの中でもここパースは住民が不満を言っているほど水道代や食材費は高く、仕事やお金がないと生活するのに困難を強いられるそうです。Cityではホームレスの人や歌やギターを演奏してお金を集めている人もいました。また店や自動販売機で売られている水の値段は日本の2~3倍。シャワーは5分以内が目安で湯船には浸かれず、水がいかにか貴重かを知ることができたけど、この頃日本と真逆でオーストラリアは冬だったのでとてもつらかったです。

産婦人科を訪問した際、日本と違ってここでは無料で子供を産むことができ、出産したその日に退院しその後5日間助産師による訪問があり検診を行うということを学びました。これは妊婦さんにとって良い制度だと思いました。助産師さんの話によると17歳の若さで子供を産むケースは少なくないと聞き、自分に置き換えて考えたら私が高校生の時に子供を産むことになると思うと、恐ろしくなると同時にそれが望んでない妊娠だった場合を考えたら子供がかわいそうでなりません。また、500g未満で生まれる未熟児は指輪が足を通ってしまうほど小さいそうです。しかしそんな危険な状態を乗り越えて今は元気に生きている子供たちの写真を見て胸が熱くなりました。

週末や休日はフリーマントルや動物園や水族館に行き日本では見られない景色や動物と出会うことができ、興奮の日々でした。フェリーの揺れに叫びながら到着したロットネス島では目の前に広がる壮大な景色に目を奪われながらサイクリング。途中野生のクオッカに出会ったり、島の端っこだまで来たものの行き止まりに遭ったりと、皆で歌を熱唱したり励まし合いながらゴールを目指し、ギアが壊れた乗り慣れないマウンテンバイクを全力で漕ぎました。今となっては決して忘れられない思い出です。動物園では目の前で策を飛び越え

たカンガルーを見たりコアアラをなでることができたりと、オーストラリアならではの動物に会えてよかったです。

三週間を通して、曖昧な英語は通じない上に誤解を与えてしまうだけだということを感じました。乗りたいバスの番号とそのバス停がある通りの名前を書いたメモを指しながら道を聞いたところ、私が尋ねた外人(マレーシア人)はバスの番号を家の番地だと勘違いし、バス停ではなく家を探してくれていたみたいで、しばらくしておかしいと思い説明し直したことで探すものが間違っていたことに気づくことが出来たけど、はっきりと英語を話すこと、お互いが理解し合っているかを確認することが大事ということを実感しました。また異国の地での一人歩きは避けた方がいいと思います。夕方は、草むらから黒人が出てきても分からないくらいすぐに暗くなり、襲われる危険性が高いです。実際に朝の散歩中にカップルが襲われたり、日本人は狙われやすいというのを聞いていたので帰りが遅くなったときは恐怖のあまり全力で走って帰ったこともありました。しかしオーストラリアの人たちはフレンドリーで親しみやすくとても親切です。私がホームステイを訪れたその晩にホストマザーのいとこの家でパーティーをしてくれて温かく迎えてもらったことを思い出します。子供たちがダンスをしたり私の腕にクモの入れ墨をしてくれたり初めでのホームステイにとっても不安を抱いていたけど有意義な時間を過ごすことが出来ました。日常生活でも道路を渡るタイミングを待っているとすぐに止まってくれたり道を聞くと優しく教えてくれたりとたくさんの人に支えてもらったからこそ無事に3週間を過ごすことが出来たと思っています。またこのCurtin大学留学を通して、同じ学年の友達や先輩とも仲良くなることができ外国だけでなく日本での交流の輪も広げることができました。医療だけでなく文化や食生活などオーストラリアと日本との様々な違いを発見したけど言

語は違っていてもコミュニケーションをとることは可能です。人を大切に思う気持ちや相手が何を話そうとしているかなどを分かろうとする意識は今後の生活においても必要であり、それが今回改めて分かることができ Curtin 留学に参加して本当に良かったと思います。英語力が上がった自信や確信はないけど今回の経験や苦勞がいつか生かされる時が来ると信じています。次また留学する機会があったらオーストラリアと日本の医療の違いをあまり見つけることができなかつた今回のような未熟な学生ではなく、医学に加え様々な知識を積んで英語も自信をもって話せる医療従事者として行きたいと思っています。初の海外留学だったけど無事に帰国することができ、準備、引率していただいた先生方やホームファミリー、いつも一緒に居てくれた友達や先輩方には感謝の気持ちがいっぱいです。ありがとうございました。



英語講義の一休憩

今回の留学は、初の飛行機かつ、初の国外行きとなった。この留学はとても貴重で思い出に残り、学べるものとなった。日本と比較して、たくさんの文化の違いに気付くことができた。

その違いとして一つ目、ゴミ箱が大きい。そして、その種類も少ない。オーストラリア（パース）はゴミの分別に関心が少ない文化であるということがわかった。可燃ゴミ、ペットボトル、ビン・・・全てが一緒に捨てられていた。だが、時々、再生資源用のゴミ箱を見ることもあった。ホストマザーによると、年に一、二回、ゴミの収集日があるらしい。

オーストラリアは、その大部分が砂漠であり、水が貴重であることは、知っていた。だが、自分の目で見てみると、驚くべき光景があった。スーパーでは、水だけで大きな陳列棚が1～2つ分（お店のサイズによる）も使われていた。また、街中や大学では、飲料用に水道があり、大抵、マイボトルの給水用の蛇口もついていた。水は大事に扱われている。ちなみに、僕のホストファミリー家では、シャワーは10分だった。（留学生は5分が一般的である。）

パースでは、トランスパースという大企業による交通業務の支配がされており、バスや電車はスマートライダーというカードをかざすだけで乗り降りが可能である。もちろん現金も使える。僕はカーティン大学と家の間の登下校はほとんどこのバスに頼った。お年寄りや、怪我人、車椅子の方などが乗り降りするときに、バスは傾き、出入り口に補助板が降りることができる。この点は、日本と違っていた。また、パースにいと、体のサイズが大きい人々を見かけることがある。公共交通機関の充実が招いてしまったのだろうか。とにかく街中ではよく、頻繁にバスを見かけるのであった。

日本食には時に、英語として通じるものもある。それは日本の食文化を代表するものでもあるからである。オーストラリアの食文化はどうだろうか。かつてのイギリスの流刑植民地だった名残からか、フィッシュ&チップスという、魚の揚げ物とフライドポテトにちょこっとサラダが付いた食べ物がある。よく考えると、三大栄養素である、脂質、糖質、蛋白質が一度に摂取できるのである。しかし、油っこくて、しかも量が多いのである。ある時、昼食に買ったサンドウィッチさえも大きくて、かじるためにアゴを大きく開かねばならない程だった。また、飲み物を探していると、日本ではあまり見かけないような大きさのボトルがいくつか目に入った。どうしてここの食べ物と飲み物は大きいのか、これでは体が大きくなりすぎてしまう。先述のバスの件も合わせて、ここのバス文化と食文化は、健康に悪い影響を与えているのだ。

パース（オーストラリア）では、目を奪われてしまうほどの絶景を見ることが出来る。だが、初の海外であったため、僕にとっては全てが新鮮で美しかった。大学や、通学路の風景でさえ、綺麗であった。日本とは違って、晴天時は空が青くて、とても広い。カーティン大学には、知の森である信州大学よりもはるかに豊かな自然があった。時に、ここは本当に大学かと思ってしまうほどである。

大学の図書館や、昼食時の風景では、熱心に勉強し、友人に勉強を教えたりしている学生たちを見た。僕が参加した、Biomedical Science の授業では、学生から積極的に発言や質問があり、病理学の実習でもそうだった。また僕のホストファミリーには、他に、中国からの留学生の男女が二人いた。家に居る時、彼らは宿題を熱心にこなし、そのことに文句も言わない。日本とは違って、やる気に満ち溢れている。そして、僕はとても勉強したい気分になった。後期も前期と同様に追試なしで通りたい。

ホストファミリー家では、夕食後にTVを見る習慣がある。初めの方は、ほとんどの英語が、部分的に聞き取れば良い方だった。なぜなら早口であったからである。二週目の終わり頃からは、テレビの内容がなんとなくわかる程度には聞き取れるようになっていた。知らない単語は、その都度辞書で調べていた。

ホストファミリーと、二人の留学生は、英語が上手ではない僕に合わせてくれたが、家の外に出るとそうはいかない。人々はみな、テレビと同様に早口で話すので、理解できないことがよくあった。リスニングの問題は、今後の英会話に影響があるので、改善していきたいと思った。

先に挙げた、Biomedical Science の講義、病理学の実習に加え、細菌学の実習にも参加することができた。その講義では、スクリーン、ノート、電子辞書だけに集中し、時々隣の藤本先生をチラ見した。授業内容は二年生以降のもの（細菌学、ウイルス学、寄生虫学）であり更に英語ではあったが、つまむ程度の内容と雰囲気学ぶことができた。実習は、その担当の教授の方（と助手の方）が親切にしてくださったため、不安なく行うことができた。病理学の実習ではグラム染色をし、顕微鏡で観察して陽性菌か陰性菌かどうかを判断した。要は青か赤かを見るのである。これももちろん英語だったので、帰ってから日本語に訳してまとめておいた。訳す際に、一旦頭のなかで情報を整理するので英語以外の勉強にもなり、一石二鳥だった。信大でもいずれその授業があるので、とても楽しみに思った。

ここに書ききれない、あるいは思い出せないだけで、他にもたくさん学んだ。とにかくたくさんの経験をし、学ぶことができた。一般的な旅行よりもたくさんの観光地に訪れることができた。

金曜日の遠出、土曜日の観光では、パース、あるいはオーストラリア独特の経験ができた。勉強だけでなく、息抜きも大事である。留学生の一人は、勉強の合間（終わ

った後)に映画を見、もう一人はゲームをしていた。休憩なしに運動をし続けられないのと同じである。金曜、土曜の観光は、僕にとってはその息抜きに相当するものだった。動物は可愛いらしく、食べ物は美味しく、景色は綺麗であった。パスで留学したからこそできたことだ、と僕は思う。

僕はこの留学に友人を誘ったし、説明会には検査の先輩方もいたが、諸事情により、検査でも、一年生男子でも僕だけになってしまった。それで、グループ内に知っている人がいない状態だった。だが、少しずつ、先輩方や一年看護女子の人々が話しかけてくれたり、あだ名を付けたりしてくれた。この点は、さすが医学部だな、と思った。

(時々僕も話しかけてみたりした。)検査で生理検査をするのであれば、患者さんとは関わらない。だが、他の専攻の方々は、必ず患者さんと接する。僕はみなさんが、良い医療従事者になれると思っている。施設に見学に行った時の、先輩方の目つき、表情、態度が変わったことからそう思った。

また、上述した通り、検査の学生が一人だけであったために、僕は検査に関係する外部の施設の見学に行くことができなかった。そこで、PT・OTのみなさんと一緒に行動することになった。リハビリの施設などの見学に行った。見聞きしていると、患者さんの状態が少しでも良くなっていることがわかり、患者さんとその付き添いの方も含め、みんなが笑顔になったこともあった。日本で検査技術科学を専攻し続け、健康を保っていれば一生見ることはないであろう、PT・OTに関係する施設や、実際の医療現場を自分の目で見ることは、とても貴重だった。だが、正直に言って、検査に関係する施設も見なかったのが、残念である。次年度以降からは、たとえ一人でも見学に行ってもらいたい。

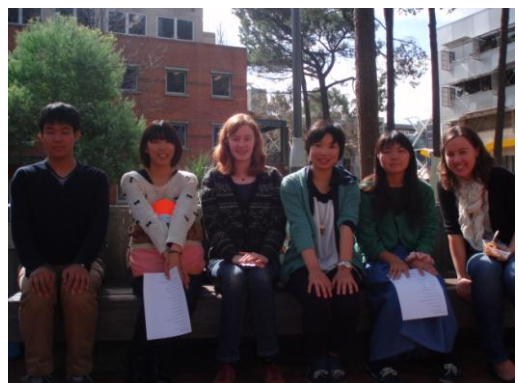
ここまでで、学んだこと、感じたことを挙げてきたが、それらはそのままではもったいない。これから繋げてこそ価値があ

る。そこで、将来に向けてどのように活かせることができるかを考えてみたい。

僕は将来研究者になりたいと考えている。そのためには大学院を出る必要がある。まだ一年生なので、どんな研究がしたいか、どこの大学のどの研究室に入ろうかなどとは考えてもいない。これからそれらを考える際に、海外の大学院や就職先を選択肢に入れるのもよいと、今回の留学を通して思った。カーティン大学の研究設備は新しく、施設は大きい。また、論文の読み書きを英語で行う場合の訓練にもなる。これらが主な理由である。また、海外留学をしなくとも、英語話者の研究者との意見交換をする際にも、英語力が必要とされる。今回の留学でどのように英語を勉強していくべきか、以前よりもよい考えが浮かんだ。いずれにせよ、日本の英語教育は読み書きに重点を置いているので、論文の読み書きに関する心配はいらなかった。そして、言語に関係なく、対人会話力が重要だと思った。

進路を決めるには、まだ早い。なので、将来どの選択をしても苦労しないように、学校の勉強の合間に英語の勉強も継続していこうと思った。コミュニケーションの力が僕には足りないことがわかったのでそれを身につけようと思った。大学でも英語の授業があるのでちょうどよい。

以上のように、この留学は、今後の進路や学習により影響があり、また、異文化を学ぶよい機会となった。外国人の、勉強に対する熱意を思い出しつつ、僕も勉学に励みたい。



現地学生との交流

理学療法学専攻 2年

12M1305A 川越 美嶺

はじめに、今回のカーティン大学夏期海外単位認定プログラムに参加し、国外で理学療法を学ぶ良い機会を与えてくれた友達、先生方、ホストファミリー、関わったすべての方々にお礼を申し上げたいと思います。サポートしてくれてありがとうございました。今回のプログラムで私が得たことは、私の将来の選択肢を広げ、また現在の私の勉強している方向性をもう一度考えさせ、様々な角度から理学療法という技術を考えさせる良い経験となりました。この経験や今回得た情報を私自身の中でとどめるのではなく、友達と共有し、来年の学生に伝え、社会に還元していきたいと思っています。

まず私がカーティン大学の理学療法学専攻の授業を受けて思ったことは、日本でもオーストラリアでも学んでいる知識は同じであるということです。しかし授業のアプローチの仕方が異なると感じました。例えば、カーティン大学での小脳失調の授業では、解剖学的情報、病理、検査方法、症状、特徴、リハビリ方法など小脳に関わる事柄を一連の流れとして授業を受けます。一方、日本の授業では解剖、評価法、治療法、病理など項目ごとの授業に分かれており、それらをリンクする訓練が行われていません。日本でもオーストラリアでも学んでいる知識は同じなので、さらに授業間の情報をもっと関連付けて考えられるような習慣を日頃から意識してこれから勉強していきたいと思いました。

最終週には理学療法学専攻4年生の一人一人について student clinic の見学をさせてもらいました。私はリウマチの患者さんとインピンジメントの患者さんの理学療法を見学しました。まずリウマチ患者さんの理学療法で日本との違いに驚いたことは、問診にとっても時間をかけることです。日本の理学療法の現場ではドクターから既に症状名のついた状態の患者さんを診ることが多く、日本の理学療法士との職業範囲

の違いや責任感の違いを目の当たりにしました。問診に時間をかけるため学生と患者さんとの関係も良く、患者さんがとてもリラックスしている様子が見受けられました。予定では頸部の理学療法のみを行うつもりでしたが、会話をしている中で手関節や指関節の炎症の経過や患者さんの悩みなども患者さんから話してくれたので、良好な関係を築くことの大切さを学びました。また触診で脊柱の狭窄を見つけたり、マッサージとストレッチと評価を繰り返したり、技術的な面でもとても勉強になりました。実際に私も患者さんの身体で脊柱の狭窄の触診をさせてもらい、技術的に貴重な経験をさせてもらいました。患者さんの両肩の高さは外見的にも大きな差があり、角度を測定し、評価を行いながらのマッサージを行い、筋や軟部組織をほぐしていきました。はじめはとても固くて自動運動、他動運動ともに左右差がありましたが、マッサージとストレッチをしていくうちにこりもなくなり両肩の高さも水平になりました。そこで治療を終了するのではなく患者さんに毎日自宅で出来るストレッチ方法を教え、一緒に練習しました。顎を引いて体の側屈を入れず頸部の側屈のみを誘導するための説明が難しく、患者さんも何度もチャレンジして一緒に練習を行いました。患者さんの協力が得られるのも理学療法士との信頼関係があるからだと思いました。もう一つの自宅でのストレッチ方法はバスタオルをねじり、両端を手で持ち、患側の耳と非患側の頸部にバスタオルが当たるようにし、両腕を交差し、頸部の回旋を促すというものでした。理学療法中の治療のみではなく、患者さんの生活の中に治療を落とし込むということが患者さんの状態を良くするために大切であるということが実際に実行されていました。2人目のインピンジメントの患者さんには、主に筋力トレーニング方法の指導と、トレーニングメニュー作りを行いました。筋力トレーニングのひとつにダンベルを肩の高さまで持ち上げ、次に肩関節を180°屈

曲させるトレーニングがありました。簡単な2ステップの動作ですが、患者さんの現在行っている動作を観察し、問題点を見つけ、指導し、実際に患者さんが一人で正しい動作を行えるようになるまで繰り返し練習するという時間をかけて行いました。この動作の中で、私の教わった理学療法士の4年生は肩甲骨の位置に着目していました。肩周りの筋を鍛えるためには菱形筋や僧帽筋により両側の肩甲骨を近づける必要がありますが、患者さんの肩甲骨の位置は左右に離れ、いわゆる猫背姿勢になっていてダンベルを持ち上げる動作も上腕と前腕の筋に頼り、患者さんの肩関節は120°くらいまでしか屈曲しませんでした。私のついていた理学療法学専攻の4年生は患者さんに肩甲骨リズムの説明を行い、現在の患者さんの筋トレ方法では怪我につながる危険性があることを説明していました。ダンベルを持ち上げるトレーニングを中断し、腕立て伏せのメニューを組み、両側の肩甲骨が正常な位置になるよう新たなトレーニングメニューを作成していました。この他にも肩周りのトレーニング方法の指導を行い、患者さんが正しい方法で出来るようになるまで練習し、患者さんと一緒に1週間のメニューを作成しました。一人当たりの時間が1時間30分と限られているためとても短い時間でしたが、その中で観察、分析、指導、実行を順序だてて効率よく行っており、私にも説明や指導をしてくださり、とても貴重な経験を出来ました。

午前中に student clinic で患者さんを2人見たあとは20分間の昼食をとり、午後は放射線専攻の4年生2人と理学療法学専攻4年生の2人と共に画像分析の授業を受けました。はじめは小児の骨端線での骨折とその経過や予後について、調べた内容のプレゼンと討論を行いました。CTとMRIの違いやそれぞれの利点、欠点について話し合いました。MRIは断面図を細かく見ることが出来ますが6歳以下の小児ではじっとしていることが難しく、どのように画像を

とればいいのかの工夫についても話し合いました。理学療法士の観点からも、放射線技師の観点からも討論を聞くことができ、一つの症状についても様々な視点から観察することが大切であることを再認識しました。次に、実際にまだ診断名のついていない股関節疼痛の患者さんの観察を行いました。理学療法士と放射線技師で問診や病歴、家族歴を聞き、はじめに理学療法士がスペシャルテストを行いました。患者さんの痛みの度合いをビジュアルアナログスケールのようなもので聞きながらテストを行い、ベルトなどの道具を使って大腿骨頭と寛骨臼の位置などを観察しました。また、授業とはいえ女性の患者さんが下着に近い状態まで脱ぎ、上半身も胸下まで洋服を上げ、理学療法士に協力している姿勢に驚きました。日本ではプライバシーなどの観点から洋服の上からの授業しか受けたことがなかったので、こんなにも視覚的な筋や骨のアライメントの観察をしたことがありませんでした。2時間以上の討論やテストを行った後、MRIの画像診断を行いました。8方向程の角度からの画像があり、学生と先生とで骨棘やアライメントの異常などを探しました。2時間ほどの討論や知識の共有を行いました。異常を見つけることが出来ませんでした。理学療法の観点からも画像診断の観点からも患者さんの異常を見つけることが出来ませんでした。一人の患者さんにこんなにも時間をかけて診断を行うということにとっても感銘を受けました。さらに、患者さんの問題点を見つけるためには正常を知っているということが大事だと学びました。また、それぞれの症状に対するスペシャルテストをもっと勉強しようと思いました。今回の理学療法学専攻4年生についての見学で得たもう一つの大きなことは、Feliciaと出会ったことです。Feliciaは私がついていた4年生ですが、彼女もまたマレーシアからの留学生で、英語を勉強してからカーティン大学に入学し、まさにこれからオーストラリアで働こうとしている4年

生でした。昼食の時間に Felicia が理学療法専攻の留学生たちのミーティングに連れて行ってくれ、就職に対する悩みや、第二言語での医療行為に対する工夫や、文化の違いなどを学ぶことができました。そこではオーストラリア特有の文化に適應するためのレクチャーや溶け込むための情報共有なども行われていて、留学生に対するサポートがしっかりしているなど感じました。理学療法においても、各国の情報や技術を教えあうことで世界的なレベルも上がっていくと思うので、とてもいい取り組みだと思いました。Felicia がオーストラリアで現地の生徒たちと学んでいる姿を見て、一生懸命勉強すれば外国人でも外国の医療現場で働けるのだということを実感できて、もっと私も頑張ろうと思えました。

このカーティン大学夏期海外単位認定プログラムを通じて得たことは技術的な面だけではなく、人とのコミュニケーションの仕方、各国の現状、また客観的に日本を見る良い機会となり、私を大きく成長させました。カーティン大学で過ごした3週間で視野が広がり、もっと多方向からの保健医療へのアプローチの仕方があることを学びました。私も一生懸命勉強して一人でも多くの人と関わり、私が学んできたことを社会に還元できるような理学療法士になろうと思います。



PT 学科のツアー

今回の短期留学で自分が学びたいと思っていたことは英語力の上達と、海外の医療事情を知って自分の医療の視野を広げるということであった。英語は授業やホームステイ先の生活を通して少しずつ慣れていき、一週間もすれば割と自然に言いたいことが出てくるようになり、3週間の短期留学を通して少し苦手意識のあった英会話に自信が持て積極的にコミュニケーションがとれるようになったと感じられた。海外の医療に関してもカーティン大学の授業では、日本の学校で学習した内容を再確認するような授業を受けた。そこでは学生がパソコンやタブレット端末を広げ、授業で行われるプレゼンテーションの資料をダウンロードし、画面にタッチペンやキーボードでメモをするなど、自分たちが日本で行っているような授業とは全く違う授業が行われていた。その授業では新しいことを学ぶというよりは「ああ、こんな授業のやり方もあるんだなあ」というように刺激を受けるような意味でためになった。医療施設の見学に関しては自分たちが授業で学んだ医療機器を実際に見学することができたり、日本の施設との共通点、相違点を認識できた。その中でも特に印象に残ったことは大学内の医療施設の見学を行った際の現地の学生との交流であった。そこではカーティン大学の4年生が臨床実習を行っていたが、先生と「対等に」というか自信を持って自分の業務に取り組んでいる様子に印象を受けた。まだ自分は日本の医療大学の臨床実習に参加したことはないのでよくわからないが、上級生の話を聞いていると「日本の実習生は先生に頼る」、というか自分の行う作業に自信が持てていないような印象を受ける。信州大学の作業療法専攻は全学年で70人程度おり、専攻の先生も10人もいないが、留学したカーティン大学の作業療法専攻の生徒数は全学年で700人程度、先生の数も

70人程度と信州大学の約10倍の数がいた。カーティン大学に同行してくださった引率の先生も「人数が少ないとひとりひとりがよく見えて性格やどんな人かよくわかる、だから多少成績がよくなかったり進級が心配な子がいてもしっかり面倒が見てあげられる。カーティン大学のように人数が多すぎるとひとりひとりなんてとても見れない、自分で自分のこと全部やらなければいけないし自分がどれだけがんばれるかにかかってくる、けどその分進級できる生徒にはしっかりと力がついてくる。」とおっしゃっていた。こういったように医療に関しては何か新しいことを学んだというよりは自分が今まで知らなかった授業への取り組み方、生徒のカリキュラムに対する取り組み方に対して刺激を受ける結果となった。「自分が早く新しいことを日本の大学で学びたい」そう思えることがこの短期留学で得た学成果になったと感じる。

今回の短期留学が中学校・高等学校・大学と学んできた英語を初めて使用する機会であった。初めはホームステイ先や英語づけの環境にとまどう場面が多々あり、思うように言いたいことが言えなかったり、ホストファミリーとなかなか会話が続きなかつたが、一週間もすればそんな英語漬けの生活にも少しずつ慣れてきて、会話が楽しめるようになっていった。すると今度は生活をする上でさまざまな日本との違いにとまどいを感じるようになった。バスや列車の運行の仕方や信号の水の貴重さや物価の違いなど数え上げればきりがなく、そういった所に最初は驚きを感じていたが、慣れてくるとカルチャーショックとして不満に思われたりするようになった。また、外国人と日本人との、主に性格面での違いにショックを受けることもあったが、それはむしろ日本人が直すというか見習うべき点だと感じられた。それはよく言われているが「日本人は控えめだ」ということである。短期留学をしている時に感じたのは「オーストラリアの人々は言いたい

ことをしっかりと言う、する必要のない遠慮をしていないなあ」ということだった。日本人だったら「言った人の迷惑になるんじゃないか」などということを考えて我慢して言いたいことを言わないであろう場面ですっきりと物を言うことが多くみられ、驚きを感じていたが、言われた人も快くその人の言うことに対応していた。自分も普段から上に書いたように「人の迷惑になるんじゃないか」と思い、言いたいことを我慢するような場面がある。今まではそれでいいんだ、と感じていたが言わないことでその人が誤解して自分にとっていやな結果になるほうがもっと嫌ではないか、と感じるようになり、日本人も見習うべきところではないかと思った。「日本人は控えめである、カルチャーショック」など自分が今までテレビや本でしか聞いたことのない単語を実際に体験し新しいことを知れた、ということが収穫になったのではないかと思う。

今回の派遣プログラムでは一週目に基本的な英語の授業を受け、二週目に医療英語の授業を受け、最終週に医療施設の見学を行った。その途中にも現地の観光地の見学など勉強ばかりのプログラムでなく社会勉強も組み込まれていたのはとてもいい点だと思った。英語の授業もただただ基本的な英語の授業を行うのではなく、オーストラリアの歴史を勉強する授業など興味深いものであり良かったと思う。施設見学についても看護、臨床検査、理学療法、作業療法それぞれの専攻に関連した施設を見学する機会があり、みな自分の将来就職する職業について日本と海外との比較が行えて有意義な施設見学になったのではないかと思われる。ただ、自分は作業療法を専攻している学生で今回のプログラムでは人数が少ないため、作業療法のみプログラムを開くことはできない、とのことであった。結果、理学療法専攻の学生について主に理学療法の施設を見学を行った。自分の専攻と関連のある専攻の施設を見学して学ぶ、ということも有意義な時間

にはなったのだが、自分としてはやはり自分の専攻している職種の施設をもっと見学してみたいという気持ちもあった。このことに関してはカーティン大学側が決定することなので仕方ないと思うのだが、来年のプログラムでは参加する作業療法専攻の学生の数に関わらず作業療法専攻の学生独自のプログラムを組んでもらえるといいと思う。

今回の海外留学を通しての一番の収穫はいろいろな人や場面からインスピレーションというか刺激を受けた点だと思う。カーティン大学の授業では授業方法や生徒の授業への取り組み方に、「こんな違うやり方もあるんだ」と驚きを受け、また授業以外でも現地で知り合った日本人留学生やその友人との交流も行った。そこでは日本語を学んでいる学生もおり、自分たちが英語を学ぶ理由とは違い、「日本が好きだから」という理由で日本語を学んでいた。そういった理由で外国の言語を学ぶ人はよく聞くが実際に会うのは初めてで話を聞くと自分たちの仕事には関係ないがとにかく印象深かった。自分たちが普段なにげなくしゃべっている言語を外国人が使っている、好きだから学んでいるという様子をみると自分ももっと英語を学んでみたいという気持ちが強くなった。その他にも普段あまり話す機会のない大学の先生たちの話はとても印象深かった。自分の専攻している先生には大学院の話聞き、ほか

にも学生時代や海外の話など、自分の興味をかきたてられ、よりいっそう自分が今まで経験したことのないものごとにチャレンジしてみたいという気持ちが強くなった。まだ、自分が将来どんな作業療法士になりたいなんていう明確なイメージは持ててないし、どうなっていくかは全くわからないが、もっと英語を勉強して将来的には国際的な作業療法士になってみたい、今回の短期留学を通してもっと海外にいてみたい、もっと自分の専攻する作業療法士という職業について勉強したい、もっといろいろなことに挑戦してみたいという気持ちが持て、自分の視野が広がったのでこれから今回の短期留学の経験を生かして自分の目標に向かって努力をしていきたいと思う。



専門講義の聴講





アボリジニ体験



Fremantle 観光



サンドボード



ピナクルスツアー



ロットネスト島



将来への誓い！

【編集後記】

今年で12回目のカーティン大学短期留学が終了しました。3週間で学生たちが多くの体験をし、一回り大きくなって帰ってきました。「百聞は一見に如かず」といいますが、海外での異文化体験は大きな学びとなり、彼らの今後の成長の糧となっていると思います。

カーティン大学、信州大学国際交流室、医学部長、保健学科長、保健学科同窓会、帯同教員そして保護者の皆様のご協力に対し、あらためて心より深く御礼申し上げます。

(文責、奥野ひろみ)

.....
「信州大学-Curtin University 大学間学術交流協定に
基づく平成 25 年度夏期海外単位認定プログラム 実施報告書」

2013 年 10 月 31 日

発行責任者:寺田 克

編集 :平成 25 年度医学部保健学科 国際交流委員会

発行 :信州大学医学部保健学科

.....